

ことう地域チームケア研究会 たよい

令和7年11月30日発行

つながろう 話そう

ハイブリッドde 研究会

第76回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

◆開催日時：令和7年11月13日（木）18:30～20:30

◆参加者：71名（医療関係32名、福祉関係22名、行政・包括・その他17名）

口の健康を保つチームケア

（担当；彦根歯科医師会・滋賀県歯科衛生士会）

今回のねらいは、①「口の健康を保つことの重要性、多職種協働での継続した支援の必要性を理解する」、②「多職種・多機関で意見交換・情報交換をすることにより、相談しやすい関係性を築き、つながるきっかけができる」でした。高齢者に多い誤嚥性肺炎の原因や予防について学び、さまざまな事例を共有しながら、あらためて多職種で関わることの重要性を認識することができました。

話題提供 1 ミニ講座

『誤嚥性肺炎とは～歯科でできる予防法とその重要性～』

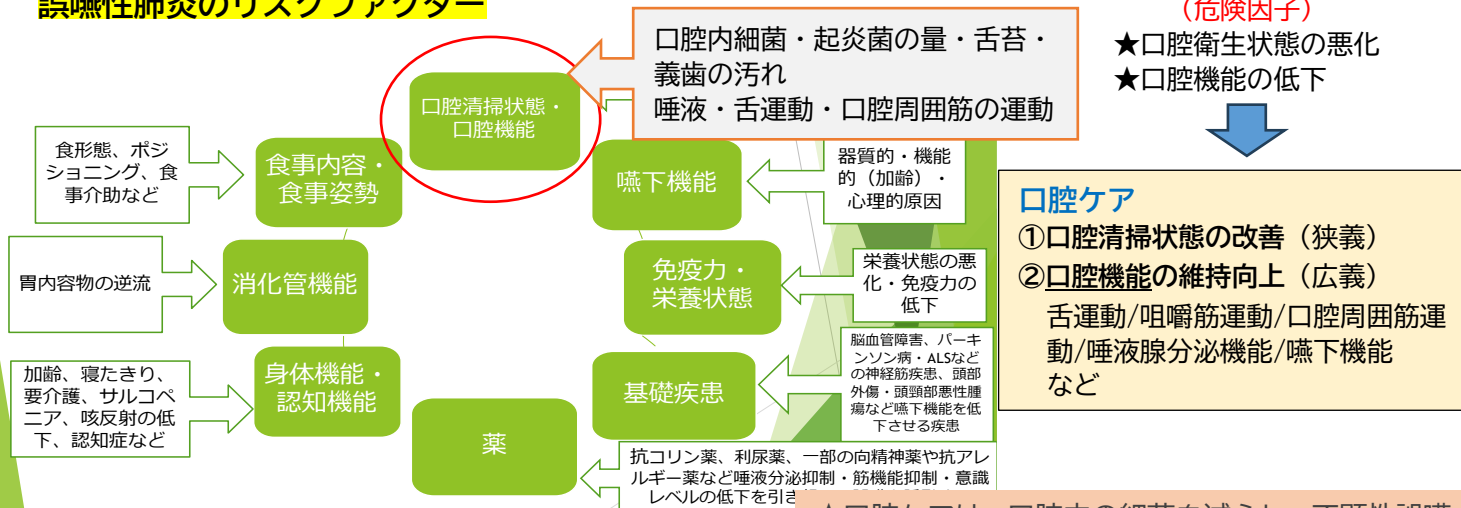
彦根歯科医師会 山口 正尚 氏



誤嚥性肺炎のリスクファクター

歯科領域における誤嚥性肺炎のリスクファクター（危険因子）

- ★口腔衛生状態の悪化
- ★口腔機能の低下



- ◆肺炎患者の約7割が75歳以上の高齢者。
- ◆高齢者の肺炎のうち、7割以上が誤嚥性肺炎。
- ◆誤嚥性肺炎を引き起こす嚥下障害の原因疾患は、脳卒中が約6割を占め、脳卒中の後遺症が誤嚥性肺炎の発生に大きく関係
- ◆災害関連死の死因全体で約4分の1が肺炎によるもの。

- ★口腔ケアは、口腔内の細菌を減らし、不顕性誤嚥による誤嚥性肺炎を予防するために重要である。
- ★有歯顎、無歯顎、経管栄養に関係なく口腔ケアを行う必要がある。
- ★口腔ケアは誤嚥予防だけでなく、口腔内がスッキリと気持ちよくなるために行うもので、肩の力を抜いて行う。

◆参加者の声

「誤嚥性肺炎について、予防のための口腔ケアの重要性が理解できました」

「歯垢は洗口剤でうがいするだけでは除去できない等勉強になりました」

「具体例（口腔スポンジの使い方など）が参考になりました。使い方を間違っていたことに気づきました」

「基礎疾患による肺炎発症率が高くなる事をあらためて、再認識をしました。注意喚起をする必要性がありますね。不顕性誤嚥については、過去にそうであった利用者様がおられましたので、特に注意をしていきたいと思っております」

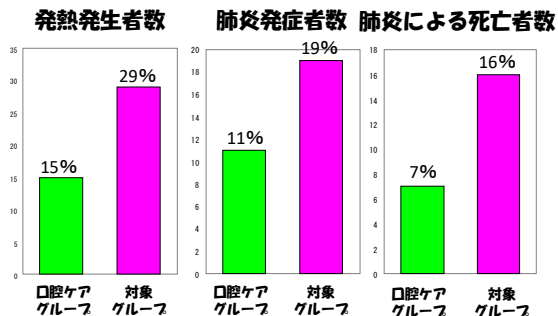
話題提供 2 事例紹介

『歯科衛生士がつなぐ現場の連携～チームで守る口からの健康～』

滋賀県歯科衛生士会 木下 幸子 氏



特別養護老人ホームにおける
2年間の口腔ケアの効果（米山ら）



★現場での連携事例

《訪問介護（ヘルパー）との連携》

- ・数年前より訪問歯科診療を利用。週1回専門的口腔ケア実施
- ・高齢者世帯で、徐々に身体的機能の低下も見られ、家族の介護負担増が心配された。

⇒口腔ケアについてヘルパーさんに協力を依頼

日常的な口腔ケアが継続できて良い状態が保たれている

《ケアマネジャーとの連携》

- ・「歯、歯茎の痛みの訴えあり」ということで歯科医院に診察の相談がある。訪問（歯科医師・歯科衛生士）にて診察・評価を実施。

⇒週1回訪問し、歯科衛生士による専門的口腔管理実施
経口摂取にトライ中

《嘱託元のデイサービススタッフとの連携》

- ・DSスタッフが利用者の口腔内の不具合に気づき情報提供がある。

⇒DS利用時に口腔スクリーニング実施。

受診の必要性があると判断し、本人・家族に伝え、歯科医師へ情報提供。スムーズに受診、治療が完了した。

歯科衛生士による専門的口腔衛生管理

◆器質的口腔ケア

- ・歯磨きやうがい等を行い歯や舌、粘膜に付着した食べかすや歯垢（プラーク）を除去すること
- ・むし歯や歯周病、誤嚥性肺炎などを予防するために不可欠なケアである
- ・うがいでは歯垢（プラーク）は取り除けないため歯磨き、歯科医院での歯石除去が必要

◆機能的口腔ケア

- ・食べる、話す、表情を作るなど口腔機能の維持・回復を目的としお口周りの筋肉や舌を動かすトレーニングやマッサージを行うこと
- ・具体的には顔面体操、舌体操、唾液分泌を促すマッサージなどがあり、全身の筋肉と同じようにお口の周りの筋肉も鍛えないと衰えていくため継続が必要

◆参加者の声

「症例数が増えたと理解も深まる」

「専門性の高い人がしっかりと説明し効果が示されればいいと思った」

「歯科衛生士が介入できる機会がさらに増えると思う」

「ケアプラン作成の上で口腔衛生の支援はとても重要。今後の支援体制づくりにも依頼をしていきたいと思う」



話題提供 3

『困った！さあ どうしましょう～介護現場からの SOS～』

彦根愛知犬上介護支援専門員連絡協議会 笹原 智栄 氏

在宅介護の現場で気づく口腔内のトラブル、
「食べること」に関する悩みはたくさん。

「食べる量減ってる？」 「噛みにくそう」
「栄養は足りてる？」 「のみこみにくそう」

「食べにくそう」
「時間がかかっている」

「よくむせる」

「痩せてきた？」
「なんか元気ない」

こっそり食べてしまう

食事の準備が大変



いろんな職種にきいてみたい！

- ◎何とか食べられているけど、ほんとにこのままでいいのかな
- ◎本人も家族も『歳だからしかたがない』というけれど、ほんとにそれでいいのかな
- ◎ずっとペースト食のままでいいのかな
- ★どんな支援をしたらいいのかな…。
- ◎（他職種に）こんなことを聞いてもいいのかな。どう相談したらいいのかな

口の健康を保ち、食べたいものを 安全に おいしく「食べる」ために

どんなことができる？

どんな風につながれる？

さまざまな職種の
専門性、立場、経験

「こんなことをしたら、こうなったことがある」
「私ならこんな風にかかわれるかも」
「こうしてみたらいいんじゃないかな」 など

グループワーク&全体会 (意見交換)



話題提供を聞いて、グループワークで意見交換をしました。

★意見交換のテーマ

- ①口の健康に関連して、どうしたらいいか困っている事例、何かできないかと悩んでいる事例について、多職種からの視点で 支援策を見つけたいきましょう
- ②他職種との連携の窓口や相談の方法、ご存じですか？
どうやってつないでいますか？

さまざまな事例～どのような対応をしたらよいでしょうか～

- ・義歯はあるが使っていない
- ・義歯が合わなくなっているが、直して使った方が良いのか、そのままでもいいのかわからない
- ・一か月に一回、歯科通院をされているが、通院のたびに一か月分の汚れを掃除している。
- ・マウスピースが自分で外せない。
- ・歯がなく、口腔ケアはうがいしかしていない。誤嚥性肺炎の既往がある。
- ・食事形態がなかなか変更できない（ペースト状から形あるものに）。
- ・在宅生活では、病院からの指示通りの食事形態の提供が難しい。
- ・食べてはいけないと医師から言われているものを家族が提供してしまう。
- ・病院で「嚥下調整食3」を食べるように言われたが、本人のお腹が満たされず、なんでも食べてしまう。なにかあったら心配。
- ・誤嚥性肺炎に注意し、吸引もしながら対応。介護の力が必要。
- ・食事がとりにくいと、在宅に戻るのが難しくなることも。
- ・調理負担の軽減に市販品はあるものの、経済的に負担が大きい。
- ・食事をとる姿勢が保持できない。

連携した支援

- ◎歯科通院はしていないがDSに通い、DSで口腔体操や口腔清掃ができています。
- ◎病院や診療所から歯科受診を勧めることがある。
- ◎胃瘻を造設した方が、栄養リハビリを行い、嚥下状態を元に戻すことができた。

こんなこと思いました

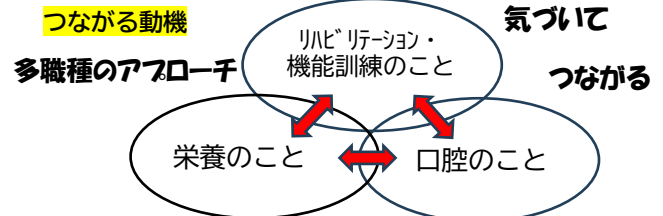
グループワークを通して感じたこと、参考になったこと、気づきなど



- ◆ケアマネとして、歯科診療につなげるために口腔内アセスメントをどうすればいいかと悩んでいたが、歯科医師の先生より、「ケアマネさんには主訴をしっかりと聞き取ってもらいたい」とご意見いただき、根本的なところを再確認できました。
- ◆日常診療していて困った時の相談先などお聞きすることができて満足した（歯科医師）
- ◆歯科医師の困りごととはケアマネジャーさんが回答でき、デイサービスの困りごととは歯科医師からアドバイスをいただけた
- ◆専門職ごとに感じた内容の違い、それぞれの立場で考えておられ、いろいろな意見が出て良かった。
- ◆それぞれの立場で貴重な話を聞かせて頂きました。胃瘻造設はただ延命をする事ではなく、栄養改善をして嚥下機能を向上させる事を目的とするが患者さんの体力によっては胃瘻を造ることは難しいので、誤嚥リスクを承知の上で、好きな食事をさせてあげる事もその人らしい生き方になるのかなどの意見がとても印象的でした。
- ◆食べることはACPの一つであること。本人の思い、家族の思いを受け止めて何が出来るか専門職との連携が必要と思った
- ◆歯科医やケアマネさんから訪問歯科診療、義歯の現実について話を伺うことができた。義歯の重要性、作製の難しさなど歯科の先生のお話を聞けて多くの学びとなった

多職種連携について・・・これから・・・

- ★課題に対して、明日から使える実践的な回答が得られると
なお良いと思う。
- ★多職種連携はとても大切ですし、支援チームづくりとして
これからも更に繋がり、ネットワークを広げていきたいと思
います。
- ★聞き慣れない専門用語は、連携する上で壁になると思
います。
- ★歯科検診に行きたくなるような動機づけとなる施策があ
れば良いと思う。
- ★パンフレットがあると利用者や家族に伝えやすい。
- ★様々な食形態の試食会をしてみても良いでしょう。



たくさんのご意見ありがとうございました

次回のお知らせ

日時：令和8年1月15日(木)
テーマ：「認知症の早期発見・早期対応」
☆詳細・申込方法はホームページにてお知らせいたし
ます。ぜひご参加ください。

「在宅医療福祉情報の森」



【研究会に関するお問い合わせ】
ことう地域チームケア研究会事務局

◆一社)彦根愛知犬上介護保険事業者協議会

TEL 49-2455 E-mail:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)

◆彦根市高齢福祉推進課(くすのきセンター) TEL 24-0828